

吃音分科会

掛川市立大坂小学校言語通級指導教室

鈴木俊彦先生

・地域に向けて、ことばの教室の役割が果たせている。その点が何よりすばらしい。菊池先生が本に書いてくださったことを実現されていますね。

・吃音理解は自己理解につながっていくので必要なことだと思いました。言葉のやりとりが楽しめるゲームも参考になりました。広報活動の教室通信も地域に知ってもらうにはとてもよいと思いました。吃音理解について地域に啓発していくことも大切なことだと感じました。

吃音だけでなく、自己理解を進めていく支援は必要不可欠だと感じています。家族や友達等、理解ある環境調整を進めていってあげることも通級担当の仕事でもあると感じました。

・まだ、相談機関として自信をもって受け入れるほどの力はありませんが、いずれ、「吃音の専門家」として、悩む人たちの受け入れができるといいと思います。

ありがとうございました。

・会話を引き出すのに有効なゲームをたくさんご紹介いただき、今後の指導に生かせそうだと楽しみになりました。ありがとうございます。購入を検討したいと思います。

・「理解が自信につながる」という言葉にとっても感銘を受けました。吃音について積極的に話題にしていきたいと思いました。

・実践例をたくさんお持ちだと感じました。どのような指導を行ったらどのような反応があり本人の理解につながったかをさらに具体的に詳しくお伝えいただくとイメージしやすかったと思います。対面での研修でしたらお答えいただけるのに…と残念です。例えば、2年後に授業参観した時の課題はどのようなことであったか。鈴木Tはどのような伝え方をされたのか。担任はどのような考えを持っていたのがどのように変化したのか など。

・通級担当者が保護者や学級担任、最後は地域まで、つながる懸け橋となり、見守っていく大切さを知ることができました。本人の症状はもちろんですが、周りの環境が変わることが必要だと改めて感じました。

・吃音について知ることができました。吃音はなおらない場合もあり、その子が一生つきあっていくものであること、通級での指導のあり方を考えさせられました。ありがとうございました。

・対象児の指導に加えて、地域のセンター的役割もされているとのこと。ご多忙かと存じます。傾聴と、いつかどこかにつながるかもしれないという思いを大切に、親、子、先生方と関わりたいと思いました。

・構音指導と吃音指導のバランスや優先度をどう考えたらいいか学びたいです。

・吃音の子への指導について、通級担当としてどのような関わり方をすることができるか、またその指導のための教材についてたくさんのアイデアを学ぶことができました。安心できる場所の設定、話してみようかなと思える関係づくりなど大切だなと感じました。

・ことばの教材をたくさん紹介していただき、早速今年度の購入希望リストに追加しました。

・安心できることは本当に大切ですが、それに加えて鈴木先生が指導されたことがもとあるのでは、それを知らないなと事例について感じました。

・発表をありがとうございました。

吃音の子どもへの指導で、何か面白い教材はないかなと探していたところなので、たくさんのゲーム教材の紹介はとてもありがたかったです。新しく『ナンテッタ』や『好きなのどっち？』などのゲームがあるといいなあと思いました。

・吃音で悩んだり、気にしたりしている子どもや保護者もいると思うので、通級につながらないにしてもことばの教室が気軽に相談できる場所になるといいと私も思いました。

今日は本当にありがとうございました。

・吃音で悩んでいるのは、一生関わる重大なものであることを改めて感じました。

ご指導の3人の子どもたちに症状やアプローチの違いがあっても、先生の受容する姿勢、安心して、自由に楽しく話ができる場の提供により改善していった事が、素晴らしいと思いました。自分も、吃音の子にはまずは「心の解放＝のびのびできること」を実践します。そして「つかえたって大丈夫！」と思える気持ちにすることをめざします。これからも安心して話せるよう、吃音とうまくつきあえるよう、吃音への心構えができるよう、接していきたいと思いました。

・発表ありがとうございました。

難発のお子さんにどんな指導をしたのか教えていただきたいです。

・指導の実践例で示していた保護者の方への吃音理解には、どのようなものを使用しましたか。

また、お子さんがやさしく話せるようになったなど、振り返りの態度を表した時には、どのようにフィードバックを行っていますか。

・随伴症状のある難発のお子さんで、構音指導を中心に行っているとのことでしたが、どのタイミングで行っていましたか。随伴症状のある児童の構音指導は、とても難しいような気がします。

・先生の吃音指導における熱心なお気持ちが伝わってきました。

私たちは幼児を対象としているので、本人から吃音についての思いを聞き取ることが難しいです。そのため、参考までに事例を何名か紹介していただきましたが、小学生のお子さん方が、吃音に対してどのような思いを持っているのかを知りたいです。

・先生の地域に対する思い、優しさに感銘しました。菊池先生のおことば「周りの人を変える」は、私の心にも響きました。ありがとうございました。

- ・吃音の子が通級を退級したあとも関われる存在でいたいなと思っています。先生を見習いたいなと思います。
- ・吃音理解はいろんな方の考え方がありますが、以前に聞いた菊池先生の講話はとてもよかったので、その菊池先生の考えを参考にされた方法を伺いとても納得がきました。また、単にその子のライフステージのことも考えて指導されていることに頭が下がる思いでした。
- ・吃音の指導についてはむずかしいなと思っていたので、鈴木先生の発表はとても参考になりました。本人に「吃音」を知らせるタイミング、通級教室を退級するタイミングなど、日頃疑問に思っていることへのヒントをいただき、なるほどと思いました。また、本人・保護者への「吃音が出てしまうけど大丈夫!!」という、自己理解と吃音理解の支援をしていくことで「自分だけ」という不安を取り除いていくことができると感じました。最後に、鈴木先生が、「地域の吃音者に対し」というタイトルで、学齢児童だけでなく、一生付き合っていくことが多い吃音者に視点を広げて関わってゆこうとする姿勢に感銘を受けました。ありがとうございました。
- ・吃音が完全に治るのは難しいと言われていた中で、児童の自己肯定感を高める御指導をされていてとても良かったです。発達通級でもとりいれてみたい教材もありました。ありがとうございました。
- ・通級指導教室という枠の中だけで完結しようとしない取り組みが素晴らしいと感じました。吃音だけでなく、ことばの教室の活動がよくわかり、参考になりました。吃音の子どもと保護者に寄り添うことが、大きな安心と勇気につながっていると感じました。
- ・吃音のお子さんの面談でのやりとりの紹介が参考になりました。自分の教室にも吃音の子供がいるので、自己理解や吃音理解を深めていける指導をしていきたいと思いました。
- ・「吃音のある子の周りを変えられるといい。吃音トークができるといい。」という言葉が響きました。
- ・事例が多くて分かりやすかった。
- ・言葉のやり取りを楽しめる教材を知ることができた。
- ・子供が自分の吃音に向き合えるように、踏み込んだ指導ができていると感じた。
- ・様々な事例を挙げていただいたので、今後似たような表れの子供が来たときに参考にしたいと思った。
- ・事例を挙げ、どのように取り組み進めていかれたのかがよくわかり、大変参考になりました。冒頭「通う通わないにかかわらず、ことばの教室が吃音者の相談場所、他との連携中継点として可能性がある」と言われたことが、とても印象的でした。
- ・入級する子を見るというだけではなく、相談機関としての面を大切にしていることがよくわかった。不安を抱えている保護者の方や本人の思いを受け止める相談場所、橋渡しの場所という大切な役割を再確認できた。
- ・ことばのやり取りが楽しめるゲーム、指導の実践、相談事例に分けて発表を聞いて、大坂小ことばの教室が吃音児や保護者にとって安全で安心して話せる場であることを実感した。吃音支援については担当者も悩めるところ。「お力になれるなら、対応したい」という鈴木先生の気持ちに同感です。

- ・吃音当事者にとってことばの教室は、相談するだけでなく、吃音について正しい知識を学べ、寄り添った親子の支援、吃音を気にすることなくのびのびと表現できる安心の場だと改めて感じました。
- ・鈴木先生が、通級児童の保護者と担任の先生との橋渡しの役目をされていることが、本実践からよく分かりました。吃音についての情報、知識、配慮することを、保護者や担任に的確に伝えていけるように、私自身、吃音についてもっと学んでいきたい思います。
- ・通級児のみでなく、通級に通わない吃音者の支援に感銘を受けました。当教室では、相談は、入級対象かそうでないか判断することが主な役割となっております。入級しないが相談だけでも良いと思います。また、社会全体がもっと吃音について正しい知識をもてば、吃音者の方は、もっと生きやすい世の中になると思います。吃音の啓もうについてもことばの教室がやっていけたらと思います。
- ・ことばのやり取りを楽しむゲームが欲しいと思っていました。とても参考になりました。いろいろ探してみたいと思います。
- ・指導の実践や相談の事例では、子供たちが吃音について理解することで安心したり、吃音の状態が軽減したりしている様子が発表されており、指導や相談に丁寧に取り組んでおられることが分かりました。具体的な活動内容をもっと詳しく知りたいと思いました。教材や書籍を紹介していただいたので、参考にしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・相談の事例があり、どのように指導されているかがわかりました。教材は、本校でも使っているものがいくつかありました。
- ・吃音指導の難しさを常に感じて指導をしていますが、先生の発表を聞き、自己理解につながるやりとりなど、小学校の指導と幼児の指導と方向性は同じだということがわかり安心しました。
- ・吃音の園児の周りの人にも認めてもらえる環境がつかれるように、保護者と共通理解をはかりクラス担任への情報発信を丁寧に行っていきたいと思いました。
- ・ありがとうございました。まだ吃音の園児を受け持ったことはないのですが、教室には吃音の子がおります。是非参考にさせていただき、勉強していきたいと思います。
- ・吃頻度がどれくらいあるのかある程度数値として示してもらえるとわかりやすかった。
- ・構音障害と吃音障害を合わせ持つお子さんの例が多かった。聖隷クリストファー大学の谷先生は、吃音がひどいときは構音指導をしないほうが良いということを書いていたが、事例は強い吃音があっても構音指導を行っていた。発音は吃音がひどいと分かりにくいこともある。2つの障害を併せ持つお子さんの指導については、どう考えればいいのか。
- ・全体構造法について解説してほしい。(初めて聞く言葉だった)
- ・吃音児や保護者の悩みは深く、そこに寄り添う姿勢がとても大切だと思いました。

・通級児の指導だけでなく、環境の変化によって吃音は波があるので、節目節目で出てくる悩みにも相談できる機関として、また、医療など他機関と連携していく窓口としての役割などとても参考になりました。

・勉強になりました。ありがとうございました。

・吃音で悩んでいるのは、幼児→児童→生徒→成人を含み、一生関わる重大なものであることを改めて感じました。昨今の事件にも関わっているようです。

鈴木先生が、「吃音については、どこへどのように相談したらよいか迷うのではないか。」とおっしゃるとおりだと思います。「ことばの教室」が、通級指導だけでなく、地域にある相談機関の一つである存在意義は大きいと再確認しました。ご指導の3人の子どもたち（緘黙、構音障害と吃音を併せ持つ、随伴症状を伴う難発・連発）が、症状やアプローチの違いがあっても、先生の受容する姿勢、安心して、自由に楽しく話ができる場の提供により改善していった事が、素晴らしいと思いました。専門家（病院のSTとの連携）も大事だと痛感いたしました。先生の受容する姿勢、安心して自由にのびのび話ができるようにしていった事が、とても素晴らしかったと思います。

・吃音者の指導では、私も心の解放のためにゲームをしたり、プレイルームで思う存分に体を動かして遊んだりしています。今回は沢山のゲームを紹介してくださったので、さっそく試してみたいと思います。私は指導の始めに吃音の調子を聞くようにしています。何気ない会話の中で、「吃音をまねされて嫌だった。」「やっぱり、クラスの人に吃音のことを説明してほしい。」などと、自分の心のうちを話してくれることがあるので、その時は担任に連絡して対処を頼むなど適切な対応ができるように心がけています。言葉の教室・保護者・担任が協力して吃音者に対応してあげられるように、発達コーディネーターと共につなぎの役目をしています。通級してくる児童のことで精一杯ですが、その児童もやがては中学生・高校生・大学生・社会人と成長していくので、児童の言葉の教室を退級してからのずっと続く人生の間の吃音の相談場所が欲しいと思います。浜松市には「言友会」と言っていて、吃音の当事者の会がありますので、言友会について私なりに調べ情報を集めたいと思います。ありがとうございました。

・年齢を問わず、吃音があり困っている人や不安に思っている人が安心していい場所があることの大切さを感じました。

・言葉のやりとりを楽しめる課題を使うことによっておしゃべりを楽しんだり、その子の持っている好奇心を引き出せたりしているんだと感じました。小学生ということもあり、本人が理解できるようであれば吃音についてわかりやすく伝える、又、吃音との付き合い方を伝えることも大切であると知りました。

・指導員との信頼関係を作り、ことばの教室が安心できる場所となり、ニコニコ、ウキウキでき、また来たいなという気持ちを親子ともにもってもらえる教室にしていることがわかりました。私たち幼児言語教室においても心のつながりを大切にしてニコニコ、ウキウキできる指導を心掛けたいと思います。

・吃音の子の話の中で、周りを変えていけるとよいという先生の思いがあったがこれは、ほかの面で特性を持つ子の場合でも障害としてとらえるのではなく、その子の個性としてよい面をとらえ、周りの子と助け合える、教え合えるかわりができればと思った。

・通級担当としての心意気を見習いたい。今回、学んだ姿勢を大切に子どもと向き合いたい。

- ・これからの吃音における地域での役割を考えて下さっていて、参考になりました。ことばの教室が、学校、医療、専門機関などつながり、橋渡しすることはやはり必要なのではないかと思います。
 - ・指導の実践は1年生でしたが、吃音は高学年になるほど悩みも深くなるので、改めてことばの教室の役割と可能性を考え、吃音児が自信を持って生きていく力を支援していきたいと思いました。
 - ・吃音は一生付き合っていくものなので、地域の中で通級に通わない吃音者の相談場所、他との連携中継点としての役割を通級指導教室で担えないかというお話に賛同します。地域の自助グループとの連携も視野に入れていきたいです。
 - ・安心できる基地、安心して表現できる力、体幹の大切さなど吃音者に関わらず通級教室にかかわる子にはだいじなことだと思いました。
 - ・身体と言葉の関わりについてあらためて確認できました。
 - ・吃音が気にならなくなる世界を目指して、鈴木先生が実践されていることがとても分かりやすかったです。通級児童だけでなく、通級児童以外の保護者や地域を含めて「吃音への理解を深める」ということを実践されていた鈴木先生に頭が下がりました。
 - ・指導実践の3例目、教育相談事案の2例、ともに自己理解が進むことで吃音理解につながり、吃音症状も落ち着いたとのこと。特に、1年生のKさんにどのような指導をされたか詳しく知りたいです。
 - ・吃音者を取り巻く環境が変わっていくと、吃音症状があっても生活しやすくなると思います。そう考えた時に、相談機関の一つになることは大きな役目だと思いました。
 - ・「ことばの教室の役割と可能性」。ことばの教室の担当者として考え、向き合っていかななくてはいけない課題だと改めて思いました。
 - ・ことばの教室を相談窓口とするということは、保護者や学校としてはありがたいのではと感じました。このような仕組みになることは理想だが、サービスが増えることで指導とのバランスがとれなくなっていくのではという懸念もあります。吃音に困っている子どもや保護者は一定数以上いると思うので、バランスを取りながら受け入れていくことが必要だと思いました。
 - ・保護者からどのように依頼が来るのかが気になります。(学校に直接なのか、市教委に来るのかなど。) またこのような相談窓口があるという周知はどのようにしているのかが気になりました。
 - ・事例を交えての発表だったのでとても分かりやすかったです。先生の指導によってのお子さんの変化がよく分かりました。幼児の吃音の相談は親御さんが心配していたり不安に思ったりすることがほとんどです。本人が気づいていることは少ないです。まずは保護者支援が大事だと思い保護者が悩みを言いやすい雰囲気作りを心掛けています。先生の言う自己理解吃音理解により自信をつけさせる支援はとても大切だと感じています。年齢に合わせて少しずつ自身の話し方について目が向けられるように指導していきたいです。
- 吃音においての自己理解や吃音理解の大切さを改めて感じました。また、ことばの教室の役割として、通級内の指導だけでなく、外部への働きかけや橋渡しなど、必要なことがたくさんあるということを改めて気づくことができ

ました。

・ことばのやり取りが楽しめるゲームで紹介されていたものを、本教室でも使ってみたいと思いました。また、面談時の提示資料など、具体物を紹介していただきたいへん参考になりました。保護者へのお話だけでなく、校内で吃音の子の対応に迷っている担任の先生にも知らせたい内容などと思いました。ありがとうございました。

・吃音の指導の難しさを日々感じています。先生のお話をお聞きし、安心して自由に楽しく話ができる場の提供ができるよう努めていきたいと思います。また、本人ではなく、周りを変えていくということを心に留めて今後も指導していきたいと思います。ありがとうございました。

・地域に開かれた教室になったらどんなによいだろう、と思う。

幼児言語教室は病院ほど敷居は高くないものの、「うちの子はこんなところに行かなければならない子どもではない」という保護者も多く、まだまだ社会に受け入れられていない部分があると感じる。

そんななか、教室便りを全園、全学校に配布しているのはすばらしいと思う。

私たちの教室は、通所してきている子どもがいる園のみに配布しているため、検討していく案件だと思った。

・吃音に対して「これが僕だ、気にしてないよ」と子どもが受け入れているが、保護者の心配が尽きずに通級している親子がいる。寄り添うこと、正しい情報を提供することは本当に大事だと考える。

・吃音のある子には、言葉のやり取りを楽しむことを大切にしたい。そのためのカード等ゲームを紹介していただきありがたかった。吃音指導には難しさがあるが、①本人の安心感 ②保護者の理解と信頼 ③関係機関との連携が重要であることを、鈴木先生の実践事例からあらためて学ばせていただいた。

・吃音に限らず、通級指導教室のもっとも大切な支援は「環境調整」であると考えています。週一回の限られた指導をするだけでは、それほど大きな効果は得られません。在籍校や在籍園への働きかけをしたり、保護者に対してこまめに相談に乗ったりアドバイスをしたりすることこそ、通級指導教室にしかできないことだと思います。鈴木先生の発表からは、入級指導につながらなくとも、真摯に保護者の悩みに乗ることで、子どもや保護者の困り感の軽減を図っていらっしゃるのがすばらしいと思いました。

・吃音についてみんなが理解することが吃音の子にとっても幸せだと思うので、地域の方が気軽に相談できたり、吃音についての広報活動をされたりしている先生の取り組みは素晴らしいと思いました。できれば指導の実践で、自己理解と吃音理解の支援は具体的にどんなことをされたのか教えていただきたいかと思いました。

・吃音は保護者もどこに相談したら良いのか分からない方もいると思うので、このように温かく相談にのっていただけたら安心できるのではないかと思います。

・実際の指導の実践例は参考になった。

・事例があることでとても参考になった。吃音の関わり方を再確認できた。

・いろいろな教材を取り入れ、話す楽しさが味わえるような環境がとても勉強になった。

・吃音への周囲の理解を促すためには、吃音の理解と伝え方を学ぶことが大切だと感じた。

- ・今年度、吃音のある通級児童が増えましたので、大変参考になりました。
- ・吃音の研修事例がわかりありがたかったです。
- ・吃音は一生付き合うかもしれないものなので、子どもと保護者が理解していくこと、そのお手伝いを適切にすることが大切だと思いました。
- ・通級を進める、進めないの基準はどこにあるのか知りたいです。
- ・粗大運動により作られる体幹が、音を出すための呼吸法に役立つことを知りました。今後の指導に取り入れていきたいと思います。
- ・自己理解と吃音理解は、症状の改善以上にとても重要であるので、自分もここに力を入れている。また、子どもをお話好きにさせることも、大切だと考えている。ことばのやり取りを楽しむゲームも楽しいものを探しているので、参考になった。
- ・吃音について、まわりにいる人たちの理解が支えになることが分かりました。
- ・通級してくる子供や在籍校だけでなく、通級に通わない吃音者の相談場所、他との連携中継点としての通級という役割や可能性について考えることができました。
- ・自己理解が自信につながったという実践発表が大変心強く感じました。
- ・子供が自己理解することが大切だと分かりました。指導で取り入れていきたいと思いました。